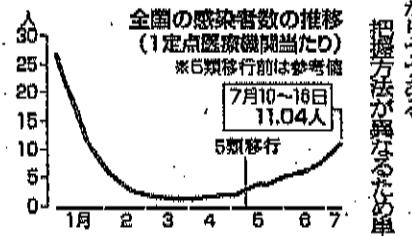


7/22 木

# 口ナ1定点10人超え

## 5類移行後初 西日本で拡大



厚生労働省は21日、全約5千の定点医療機関から10～16日の1週間に報告された新型コロナウイルスの感染者数が5万4,150人で、1定点医療機関当たり11・04人だったと発表した。定点当たりの報告者が10人を越えたのは新規感染が最初に10人を超えたのは沖縄や九州、関西を中心とした府県。西日本で感染拡大が鮮明になりつつある。把握方法が異なるため單純比較はできないが、施行10人を越えたのは沖縄や九州を中心とした府県。

西日本で感染拡大が鮮明になりつつある。把握方法が異なるため単純比較はできないが、施行10人を超えたのは沖縄や九州を中心とした府県。西日本で感染拡大が鮮明になりつつある。把握方法が異なるため単純比較はできないが、施行10人を超えたのは沖縄や九州を中心とした府県。

43都道府県で増加した。西日本で感染者数が5万4,150人で、1定点医療機関当たり11・04人だったと発表した。定点当たりの報告者が10人を越えたのは新規感染が最初に10人を超えたのは沖縄や九州を中心とした府県。

西日本で感染拡大が鮮明になりつつある。把握方法が異なるため単純比較はできないが、施行

染拡大が生じる恐れがある」と指摘。夏季みシーズンを前に、体調が優れない場合は旅行や帰省を控えるよう呼びかけていた。

※は感染者数単位は人( )内は前週からの変動率、厚生労働省のデータに基づく。1人未下回りないのは異例。

40人の感染が新たに報告された。定点当たりでは1.76人で前週比1.06億人だった。7月上旬医療機関当たり10人を超えた。人の往来が活発になる夏を迎えて、增加に拍車かかるとの懸念もある。専門家は「感染しても症状があれはイベントなどへの参加は控えて休んでほしい」と訴えている。

### ●特有事情

「過去の状況を踏まえると、夏の間に一定の感染拡大が生じる恐れがある」。加藤厚労相は18日の臨議後の記者会見で危機感を示した。2021年と22年、夏に大きな流行の波が起きたことが念頭にある。冷房で換気が不十分になりやすくなると、お盆や夏休みで人々が会う機会が増えることなどが要因として挙げられる。全国で最も感染拡大が多かった沖縄県。県外からの旅行者が多い、親戚などの

## 往来盛んな夏、要注意

専門家「症状軽くても休んで」

### 新型コロナウイルス感染症の法的な位置付けが5類に移行した後も

感染報告

数の増加が続き、厚生労働省の21日の発表では、季節性インフルエンザで、「注意報」の基準となる1定点医療機関当たり10人を超えた。定点当たりでも「感染報告」の基準となる1定点医療機関当たり10人を超えた。定点当たりでも「感染報告」の基準となる1定点医療機関当たり10人を超えた。

40人の感染が新たに報告された。定点当たりでは1.76人で前週比1.06億人だった。7月上旬医療機関当たり10人を超えた。人の往来が活発になる夏を迎えて、增加に拍車かかるとの懸念もある。専門家は「感染しても症状があれはイベントなどへの参加は控えて休んでほしい」と訴えている。

### 夏の感染対策のポイント

※厚生労働省の資料より



飲食の付き合いが盛ん、活動的な若い世代が多いなど、特に夏の間は高齢者に感染拡大が生じる恐れがある。加藤厚労相は18日の臨議後の記者会見で危機感を示した。2021年と22年、夏に大きな流行の波が起きたことが念頭にある。冷房で換気が不十分になりやすくなると、お盆や夏休みで人々が会う機会が増えることなどが要因として挙げられる。

全国で最も感染拡大が多かった沖縄県。県外からの旅行者が多い、親戚などの

飲食の付き合いが盛ん、活動的な若い世代が多いなど、特に夏の間は高齢者に感染拡大が生じる恐れがある。加藤厚労相は18日の臨議後の記者会見で危機感を示した。2021年と22年、夏に大きな流行の波が起きたことが念頭にある。冷房で換気が不十分になりやすくなると、お盆や夏休みで人々が会う機会が増えることなどが要因として挙げられる。

夏本番となり、他の都道府県でも感染拡大が懸念される。高山医師は、イベントなどのものを自衛する必要はない「ご都道府県のマスクをつけてね」と話す。

一方で夏場のマスクは熱中症のリスクを高める恐れ特に高齢者は「一定の流れ規模を超えるようであれば、不特定多数が密接なる場所は避け方が良い」と提案した。